こだま

No.92
熊本県多良木町議会発行

たらぎ 議会だより

12月 定例議会

身近な議会を（議長年頭挨拶） P2
再開校に議論異論 …… P3
一般質問 7議員が町政を問う …… P6
政務活動報告 …… P13

放水始め！（消防団出初め式）

身近な議会をめざして！

議長　鍋田清高

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、希望に満ちた輝かしい年をお迎えのこととお慶びを申しあげます。

皆様方には、日頃より議会に対しまして深いご理解とご協力を賜り、心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返って見ますと、安倍内閣の大幅な金融緩和政策「アベノミクス」による円安と株価上昇をきっかけに、デフレ脱却・景気回復の兆しが出てきた一方、財政悪化や4月からの消費税8％への増税による景気への悪影響が懸念されています。

外交では、隣国の中国や韓国との関係修復など難しい局面となっています。一方、農業をめぐる情勢は、環太平洋経済連携協定（ＴＰＰ）問題、水田農業政策の見直し等により大きく変化しようとしています。地方自治体も長引く景気の低迷や少子高齢化など様々な課題に直面し、まだまだ明るい兆しは見えず、不安や閉塞感が広がっているように思えます。このような社会情勢の中ですが、議会としましても、議会活性化特別委員会を設置し、「町づくりへの係わり」や「議会の活性化に資すること」また、昨年8月に開局されました「光ブロードバンドの活用」等について検討し、地方分権への役割を果たし、議会に与えられました町民の皆様からの信託と期待に応えるべく、「身近な議会」をめざし、町、関係機関、諸団体の皆様方と連携しながら、本町発展に向け鋭意取り組んでいく所存です。

どうぞ町民の皆様方の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

話は変わりますが、ある新聞の社説に目が留まりました。テレビで時々聞く「多事争論」という言葉です。語源は福沢諭吉が「文明論之概略」で述べた言葉だそうです。「自由の気風は唯多事争論の間に在りて存するものと知る可し」意味は、「自由の気風はただ多事争論の中からしか出てこない。必ず、反対意見が自由に発表され、少数意見の権利が保証されるところにのみ存在する。政治に向き合う国民が主権者として不断に是は是、非は非と声を上げることが大切である。」との言葉に「初心」を再確認させられたところです。

結びになりましたが、町民の皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

校へ!!
予算化!

平成25年12月定例会は、12月5日から13日までの9日間開催され、条例等7件、各会計補正予算5件、委員長報告6件、追加日程で発議5件が提案され慎重に審議した結果、原案どおり可決しました。

また、一般質問には7名が登壇し、町長・教育長の考えを質しました。

議論・異論のなか槻木小学校再開

●備品購入費や修繕・清掃委託料など

平成25年度補正予算

一般会計補正予算は、9,704万円減額し
総額65億6,699万円とする。

〈歳出の主なもの〉

☆集出荷貯蔵施設整備事業補助･･･▲１億４１１万円
（上球磨JA選果場の入札残によるもの）

☆農林商工担い手対策補助
（30万円×５人分）･･･１５０万円

槻木小学校

☆槻木小学校備品購入費及び清掃委託料 ･･･３２０万円

☆えびすの湯配管等修繕料･･･３００万円
（配管水漏れによるもの）

☆地方バス路線維持補助費･･･１０２万円
（産交バス運営補助）

陥没した配管修繕箇所

県から購入した旧職員住宅

☆住宅建設費
（旧高校職員住宅解体及び建築設計業務委託料）
･･･２１４万円

一般会計補正予算の反対討論

吉瀬　浩一郎　議員

３，２０２千円の槻木小学校再開校の予算に関しては事前説明が不充分。あまりに唐突な予算の計上は住民の様々な疑念に対して答えていない。一人のために槻木小学校を再開校し多額の税金を投入する根拠と大義名分が希薄である。そもそも支援員の仕事は区長や民生委員の方々の仕事とどう違うのか納得できる説明すら明確でない。槻木地区に突然現出する１千万円の支援員住宅、約３８万円という高額な月額報酬に支えられる支援員制度、数値目標、費用対効果いずれからも限りなく遠い不条理を内包しつつ、合意形成のないまま正面突破しようとする町長の姿勢に深い疑問を持たざるをえない。

（採決結果　賛成 12・反対１）

〈特別会計補正〉

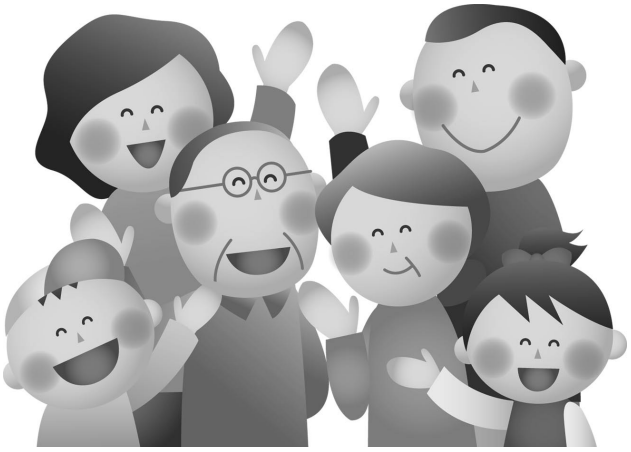
◎国民健康保険・・・2,263万円　◎介護保険・・・4,614万円

◎下水道事業・・・2,148万円　◎後期高齢者医療・・・▲53万円

（採決結果：全会一致）

【みなさんからの陳情・要望】

件名および要旨	提出者住所氏名	付託委員会	結果	意見書
安全・安心の医療・介護の実現と夜勤改善・大幅増員を求める陳情書	熊本県医療労働組合連合会 執行委員長 田中　直光	厚生文教	採択	有り 発議第９号
介護保険制度の充実を求める陳情書	熊本県社会保障推進協議会 会長 鳥飼香代子	厚生文教	採択	有り 発議第 10 号
国民健康保険財政への国庫負担割合を増やすことを求める陳情書	熊本県社会保障推進協議会 会長 鳥飼香代子	厚生文教	採択	有り 発議第 11 号
小学校就学前までの子どもを対象とした国の医療費制度を早期に創設することを求める陳情書	新日本婦人の会熊本県本部 会長 畠田ミツ子	厚生文教	採択	有り 発議第 12 号
国民健康保険療養費国庫負担金の調整（減額）廃止を求める陳情書	新日本婦人の会熊本県本部 会長 畠田ミツ子	厚生文教	採択	有り 発議第 13 号
県道及び町道の拡幅改良（２車線）に関する要望書	久米地区区長会会長 豊永　一義 他久米地区区長 11 名	経済建設	採択	無し



議会活性化特別委員会

いよいよ実現化に向けて二つの部会を創設

議会活性化特別委員会は現在「倫理条例部会」・「通年議会部会」の二つの作業部会で専門的な調査研究活動を開始した。

倫理部会は「町の政治倫理条例」はあるものの「独自に議員の倫理条例」をつくり自らを律して行くべきとの判断から現在素案を委員会に提出し検討している。

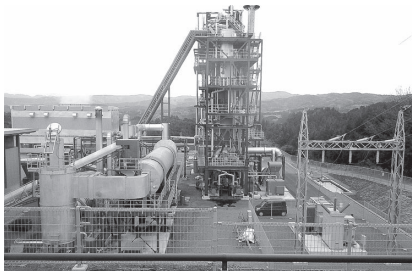
通年部会はその「通年議会」のメリツト・デメリットの検証とまた、その制定に伴い裏付けとなる「議会基本条例」を位置づけ制定すべきとの結論に達し素案を作成した。その中で執行部との係わりあいが多数あるために両者での研修をも同時にすべきとの判断から今回福岡の川崎町での共同研修となった。

両部会とも２６年度の３月議会の条例制定に向けその素案を充分に協議し通年議会はその試行期間として２６年６月議会より実施する予定である。また、議会改革の一環として、本１２月議会より新たな取り組みとして一般質問を「一問一答」とし、町民の皆様に、より「わかりやすい議会」を目指している。

認識の共有化を図るために・・。ー合同研修会ー

議会と執行部は「えびすの湯の熱源研究」と「通年議会の試行」の認識共有化を目的として、間伐材を木質バイオマス発電燃料としている日田市の「グリーン発電大分」と通年議会の先進地福岡県川崎町の研修を行なった。

えびすの湯の燃料供給源として町より議会に対しての研究・検討を要請されていることを受けて今回の日田発電所では、木質バイオマスを活用し新エネルギー電気を供給し、循環流動床ボイラーにより木質チップの持つエネルギーをより高い燃焼効率で引き出し、無駄なく活用し、時間当たり５７００kw/H を発電、そのうち５０００kw/H を売電する。



売電額は年間約１０億円を見込んで、総事業費は約２１億円であり、燃料の未利用材は、日田玖珠地域の林業関係者らでつくる日田木質資源協議会（１８社）などと連携し、半径５０キロ圏内から調達する。年間約６万トンのチップを使用する計画で、購入費は５億～６億円という。また、22 名の雇用の創出がはかられていた。

川崎町では平成 20 年より「議会改革特別委員会」において審議を重ね町執行部との条例案についての意見交換が行なわれ、22 年の６月議会において可決されていた。

インターネツトによる議会中継・住民アンケート・夜間議会・住民懇談会等が行なわれていた。

これまで議会は「議会活性化特別委員会」において「通年議会」について研究活動を行なってきたが、執行部との「意識の共有化」を図るための研修の目的であったが、我々の想像する様な混乱は無かったように感じた。

そしてまた、より町民の皆様に対し「開かれた議会」「町民参加型の議会」「存在感と信頼される議会」を目指しさらなる議会改革に取り組むことを決意する研修となった。

文責　林田

7議員が町政を問う

［全ての質問事項］

1　皆越　秋廣　議員（6ページ）
① 公立多良木病院について
② 農業の振興について
③ 農林業の振興について
④ 介護保険について
⑤ 無形民族文化財の振興について

2　魚住　憲一　議員（6ページ）
① えびすの湯について
② 行政座談会について
③ 農林商工祭について

3　林田　俊策　議員（8ページ）
① 光ブロードバンド整備の今後について
② 24年度へ前倒しした予算と25年度予算の進捗状況は
③ 本町の少子化対策について
④ 槻木小学校の再開校について

4　吉瀬浩一郎　議員（8ページ）
① 老人福祉センターについて
② 槻木小学校の再開校について
③ 球磨郡公立多良木病院について

5　源嶋たまみ議員（9ページ）
① 農業振興について
② 教育振興について
③ 町長の研修について

6　村山　　昇　議員（9ページ）
① 介護保険サービス利用について
② 次世代育成支援対策について
③ 歯科保健について

7　久保田　悦子　議員（10ページ）
① 公共事業の請負について
② TPPについて
③「えびすの湯」について
④ 公立多良木病院問題について
⑤ 槻木の取り組みについて
⑥ 農林商工祭について
⑦ 川辺川利水問題について

皆越秋廣議員

質問　平成16年度から始まった新臨床研修医制度の影響などにより大学からの医師の派遣が厳しい状況にある。医療資源は、都市部に集中しており山間、離島といったいわゆるへき地では、日常の医療を担う医師にも恵まれない地域が多数点在するのが現状である。

このことについて考えをうかがいたい。

町長　私たち開設協議会の正副会長としては、

Q　公立多良木病院の医師不足の対策は

A　医師招へいに向け全力で

魚住憲一議員

質問　町は平成18年度にエネルギービジョンを策定し、平成22年度は木質バイオマス利用事業化調査を行っている。

しかし目に見えるようなことは出来ていない、どのように考えているのか。

また、木質バイオマスの今後の計画は、町独自で取り組むのか。

それとも本体設備を外注する考えはあるのか。

Q　木質バイオマスの計画は

A　事業申請を目標として

病院からの報告を受け、医師招へいに色々手を尽くしているところで国の政策の転換により、大学からの医師の派遣というのが大学自体も厳しい状況になっており、医師招へいにより、私たち4町村長は、24時間救急体制を守るというのがまず第一番の重点課題だと思う。

医師招へいに向けてどういう形で運営していくかということも早急に取り組まないといけない。

しっかりやっていきたいと思っている。

Q 減反廃止後は A JAと協力して農家収入の安定化を図る

質問 コメの価格維持のために、生産量をしぼる生産調整（減反）が5年後をめどに廃止されることが決まった。減反廃止後は、環太平洋経済連携協議（TPP）交渉の妥結をにらみ、安価な海外の農産物に対抗できる農家を増やす狙いがあると言われるが、約50年ぶりのコメ農政が大転換することになる。

今後、農家に対してどのように指導していかれるのか。

仲川農林課長 今回の転換につきましては、非常に重要なコメ政策の転換であり、農家が安定してこの助成メリットを受けられる生産体制の確立がもとめられるが、現在のところ農林水産省の改革方向案としての情報しかない。

今後、詳細な国県の指導があると思う。その後、営農座談会を開催し、詳しい情報提供、今後の営農方針についてJAと協力し進めていきたいと考えている。

どうなる減反廃止

松本企画観光課長 町においては、新エネルギービジョンを策定している。

チップボイラーを利用した場合、最も、えびすの湯の熱源として効果があるということで、研修などをしたが、機種の選定が出来ていない。

基本的には町単独での導入を考えているが、県、経済産業省の補助事業があり一番早く取り込めると思っている。26年度の事業申請を目標として、議会と協議しながら取り組んでいきたいと思う。

町長 町全体としては林業活性化、雇用の確保などで、プラスになると思い、目途を早くつけてやっていきたい。

Q 農林商工祭の今後は A 今回以上に内容を充実

質問 第1回農林商工祭について、問題点、反省点などが上げられたと思うが、今後の取り組みについては。

松本企画観光課長 第1回ということで、内容の決定に時間を要し、周知不足ということが上げられ、祭りの開催日時を3月末に、仮の決定をし、正式に農林商工連絡協議会で決定されたのが5月2日でした。

実際にはそれからのスタートになり、日程的に無理が生じた部分があり、ステージのイベント内容についても、工夫が必要であると感じている。

集客が多く、駐車場の確保などが反省点ではあるが、総括として祭りは成功したと考えている。

来年以降も実施することであれば、実行委員会体制を今以上に充実させ、イベントの内容、予算の配分などは、実行委員会の中で協議したほうが一番良い、やり方だと考えている。

Q 光を「宝の持ち腐れ」にしないためには
A 防災無線の代わりに接続率を上げていく

林田俊策議員

質問　光ブロードバンド事業には高額の予算が投入されているが接続率を上げてその便利さを町民に理解されるべきではないか。「宝の持ち腐れ」にならないため今後の問題点や活用方法はどのように考えているのか。

町長　老朽化している防災無線の代わりとして整備していくことが考えられる。連絡のツールと考えているが、各家庭に端末機器を設置すると通信回線費が要る。防災無線も、これまで経費は使っているので、それと比べその範囲内であれば良いと考えられるが、どこまでサービスをしていくのかが問題である。

利点と言えば防災無線は定時放送をしているがその時間帯に聞き逃しても大丈夫であると考えられる。

松崎総務課長　接続率が26・4㌽で加入率をどのようにして上げていくかが最大の問題と考えている。国も今後高齢者世帯の見守りについての補助事業等をする可能性があると思っているのでその補助により加入率を上げていこうと考えている。

久保田副町長　町独自の開局については、シシステムを開発し、「光ボックス」の接続が必要である。

その費用を各家庭で負担していくのかという問題も今後の課題であり、早い時期に業者と交渉しながら整備に努めなければならないと考えている。

期待される「光 BOX 装置」

Q 槻木小学校の再開校の考えと補正予算は
A 本校で開校し補正で320万円

質問　再開校は法律により、教育委員会の専権事項で、議会は何も言えないが、町長は「再開校は目的ではなく手段である」と言われているので「分校という考えや久米小学校への入学」と言う考えは無かったのか、その経緯と予算内容措置はどうなっているのか。

椎葉教育長　8月28日の委員会において県への申請手続きの承認を経て9月5日と10月5日に支援委員の家族との懇談の際に「槻木の学校に出したい」との意向を受け、後9月30日に子どもの住所を移し10月1日に県への手続きに至り、休校の際、校長が久米と兼務だったのでそうであれば、分校の方が良いのではないかという委員会内での話はあったが、再開校は本校で休校としたので本校というのが原則であるので、10月11日に正式に決定した。

また、予算の問題は11月6日に町部局に予算措置をお願いし19日に現地調査、26日に320万円の補正査定を受けた。

宮本教育課長　20日の定例の委員会においてはまだ予算確定が出来ていなかったので事後報告で次回の報告とした。

椎葉教育長　予算は委員長には報告したが、「教育委員会に諮らなければならなかった」認識が薄かったし報告が遅れた。

手続き上の問題があったのは申し訳なく思う。不手際をどう修正すればいいのかわからないし、正直いって、予算の措置に頭が回らなかった。

Q 危険個所の改修は
A 住民・議会の理解が必要

吉瀬浩一郎議員

質問　奥野のデイサービス・センターの賃貸借契約の概要、建物の改修は何処が行うのか。「急傾斜のスロープ、狭い通路とトイレ、転落など危険防止の手すりが不備、風呂のドアが引き戸でなく重い」など介護保険対応の施設としては危険個所が多い。

　多額の改修ではないので事故等発生前に施設の所有者である町が改修すべきでは。

平川町民福祉課長　町から社会福祉協議会へ土地建物ともに無償貸与。改修は社会福祉協議会が行っている。

町長　もともと健常者が使用する施設でスタート、現在は最初の目的とは違う使用形態となっている。屋根の葺き替えが200万円で、大改修は、社会福祉協議会では難しい。

　私が会長なので、大改修のときは、住民の理解が得られれば予算措置したい。

築40年 老朽化した奥野のディサービスセンター

Q 本当に再開校するつもりか
A 4月から本校とする

質問　槻木小学校再開校に関しては、毎回事後説明。議会に対する詳細の説明がないまま、12月議会に唐突に320万円の予算が計上された。一人、1クラスで「本校」として再開校するというのは本当か。その場合、何名の職員を要し開校時に必要な予算額は。

椎葉教育長　再開校に関して教育委員会では異論は無かった。児童の保護者である集落支援員の強い希望があったため「本校」とした。

宮本教育振興課長　本校の場合、校長、担当教諭、事務用務担当の最低3人は必要。開校に要する予算は約800万円。

槻木小１人１クラスで再開校

Q 病院問題に本気で対処しているのか
A これからは実績をあげる

質問　平成24年度病院事業決算額は3,300万円の赤字となった。特に内科医の減少は深刻。病院には約430名が勤務している。

　この雇用を守るための方策は。このままでは1月からの24時間救急体制が続けられない。

　医師は減少し、新たな医師の確保は困難を極めているにもかかわらず、事態はいっこうに進展しない。特に町長に自覚して頂きたいのは多良木町にある病院を自らの身を挺して職員の雇用と併せ守って頂きたいということだ。

町長　医師の減少が続いているため、まずは医師の招へいを最優先に取り組む。

　救急体制が出来なければ、その間は人吉総合病院搬送やドクターヘリで対応したい。

　4町村長も医療と雇用を守るという点で一致している。

　これからは気持ちだけではなく実績を上げなければならない。

空席が目立つ待合室

Q 農業機械導入等の推進は
A 導入支援事業等で対応

源嶋たまみ議員

質問　ＴＰＰを見据えての戸別補償制度の見直し案の決定を受け、飼料米やＷＣＳ（サイレージ化はロール状にした穂や茎葉をフイルムで包み発酵させる方法）の増加が見込まれるが、畜産農家にも後継者が少なく、男手ひとつでの作業が現状である。

作業効率を考えてのＷＣＳの受託となるので、これ以上はできないと面積を制限されている。

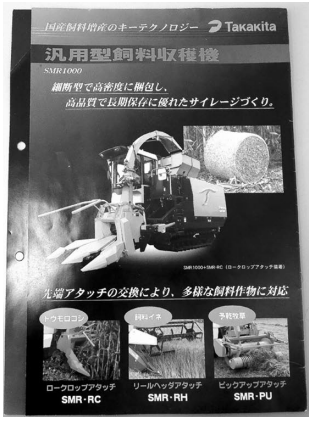
町が機械を導入保有し、畜産農家に貸し出しが出来るのか。

仲川農林課長　行政が直営で機械を導入し貸出したり生産活動をすることは現在考えていない。

25年度から町単独で農業機械導入支援事業も行っており、利用可能。

国の施策にも「攻めの農業実践緊急対策」があるので、その中に機械導入の項目があれば積極的に活用したい。

Q 教育振興の補助と減免は
A 各項とも真摯に対応したい



畜産農家が利用する高額農業機械

質問　各種大会等出場補助金交付要綱について多良木中学校、多良木高校と子供達が頑張っている。

ユニホームを購入するにあたっての補助の割合が違うと聞いたが、どういう基準になっているのか。

また、各種大会に出場する選手のグラウンドの使用に関し、管理者への免除の申請をするような配慮の考えはないのか。幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の保育料減免対象の年齢の変更についてその後の経過と来年度はどのようにされるのか。遠方から通う小学生に対し、スクールバスの運用の考えはないのか。

宮本教育振興課長　中学校には年額50万円の一括補助をしている。それを学校で18の部に振り分けて、使途については各部で話し合いをし、決めている。

各部で購入するユニフォーム補助金の額が違うということではない。ちなみに小学校には学校ごとに年額3万円の補助をしている。

各種大会等出場補助金交付要綱では、選手出場に関して2分の1の補助、保護者1名に限り3分の1の補助となる。多良木高校については、今回はじめて町から「特別枠で2分の1程度」ということで補助をしている。

町を代表する選手が、郡体、県体、郡一周駅伝など各種大会へ出場する場合は、大会の2ヶ月前から施設使用に関しては減免で対応している。通年の使用に関しては申出があれば検討する。

就園補助を行っているのは5町村であった。26年度の予算要求を検討している。

椎葉教育長　スクールバスについては町の各小学校全体をみて検討したい。今のところスクールバスに関しての要望はいただいていない。

ジュニアオリンピック、走り幅跳びする、竹下佳汰君

Q 老人ホーム等入所待機者の対応は

A ゼロになるよう努力する

村山　昇議員

質問　介護保険サービス利用について、扶養者がいない人や、日常生活等に支障を生じている方々が利用される介護施設、特別養護老人ホーム等に入所希望しながら施設等が少ないため、入所できない待機者が83名（町内在住者・熊本県調べ・H25・10・31現在）おられる。長年、町の発展に寄与された方ばかりと思う。家族による介護も限界にきている状況から、特別養護老人ホーム等の定員増等が必要では。

前田健康保険課長　特別養護老人ホームについては、現在のところ要介護1以上の方が対象ということで、常時、介護等の必要が比較的重い方が入所対象となっている。

管内の状況としては、本町の施設（あずみ野）が定員60名、人吉球磨広域行政組合運営の施設（湯前町・福寿荘）が定員90名、その他9施設「社会福祉法人」運営の施設がある。

町長　確かに、現在待機者がいるが、私も、在宅介護していくことが一番良いと思う。そういう意識づけと周知をしながらも、一方では介護施設を利用しなくてはならない事情もわかっている。介護保険料との関係や入所費用等を考えながら、厳しい問題だと思うが、待機者がゼロになるように努力をしていきたい。

町内の特別養護老人ホーム

Q 精神保健福祉士正規職員の採用は

A 前向きに検討

質問　次世代育成支援対策について、現在子育て支援の中で、いろいろ相談される方、また、支援をしなくてはならない子ども達がいると思うが、相談のケースで重度なケース等がある場合、福祉の国家資格の中で精神保健福祉士資格者の正規職員が必要では。

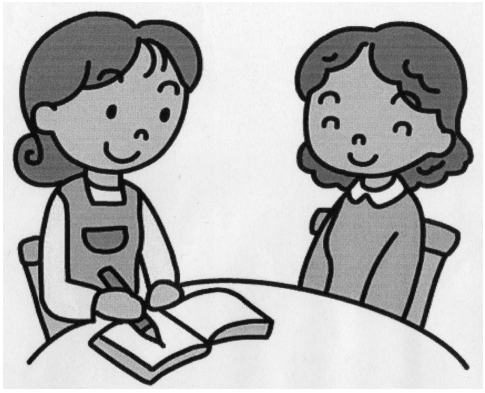
西　子ども対策課長　この事業は、平成21年度より、子育て家庭支援スタッフ訪問事業で、育児に悩みのある親の話を聞いたり、育児期の孤立感や育児不安の解消を図る支援である。

また、ネグレクト（育児放棄）などで、望ましい生活ができない子どものいる家庭支援を行っている。

対象児童の生活支援改善を図る目的で、現在14件あり、熊本より精神保健福祉士の方が、月6回来町し、相談を受けている。

町長　今、学校等で、いじめ、特別支援、精神的なものも以前からすると社会情勢も含めて出てきていると思う。

専門的なことを学んだ人に、現在いる特別支援担当者に講習等をすると共に、採用については、今後前向きに検討していきたい。



Q 入札の「事前」公表は出来ないか
A 「事後」公表でいきたい

久保田悦子議員

質問　公共事業の入札の事前公表は、県内32自治体で行われており、本町は事前事後の併用団体となっているが現在、事前の公表は行われていない。

町内の業者の方からは事前の公表を望む声が出ている。

事前の公表は公共事業の透明性、公平性を得るために導入された。

そこで指名競争入札の平均落札率はいくらか、またもう一度、事前の公表は出来ないか。

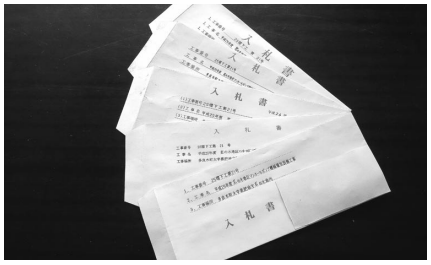
久保環境整備課長　平成24年度分の平均落札率については、98・2％となっている。

町長　平成18年度までは、事前公表することによって入札の透明性を確保しながら競争性を高めるということで実施していた。

落札率の低下や落札価格の妥当性、設計価格と見積もり価格の比較分析が出来ると思い実施していたが、思う以上に結果が出ず、以降は事後公表としている。

また、本町は最低制限価格を設けているので、その間では業者間の技術力や企業努力によって応札されるので、私は問題ないと思っている。

国からも「事前公表で様々な弊害が生じた場合は、事後公表をしなさい」と通達が来ているので、今後も、事後公表でいきたいと思う。



入札調書

Q 公立病院の医師対策は
A 医師招へいを最優先

質問　公立多良木病院の医師不足が深刻化するなかで、病院の指定管理が問題になっていた。院長が退職されることになり、また開設者協議会の会長（湯前町長）も辞められた状況のなか、今後、公立病院の医師対策はどのように取り組まれるのか。

町長　我々開設者協議会は24時間救急を守ることが最大の仕事である。

そのためには医師招へいが最優先である。

また、現在の体系を堅持しながら経営努力し、職員雇用の場の確保にも最大限努めていきたいと思っている。

その方法として、指定管理が有効であれば、そういうこともあり得るとは思うが、現在、病院内の先生達や職員等のアンケートの中にも、また、球磨郡の医師会からも指定管理には慎重に取り組んでほしいと届いているのも事実である。

だからこそ、我々はあらゆる手段を講じ検討し、24時間救急を守るために医師招へいを最優先に取り組むことに尽きると思う。

医師不足が深刻化される公立多良木病院

何故　議会改革をやるのか!!

総務常任委員会　政務活動報告

議会は平成23年の12月議会で「議会活性化特別委員会」を設置し、これまでに13回の協議を重ねてきました。目的は地方分権の進展により議会の役割・責任が増し、議会の活性化が益々求められるようになり、また「議員の仕事振りが見えない」といったご批判に対しても、何をなすべきかの検討をしています。

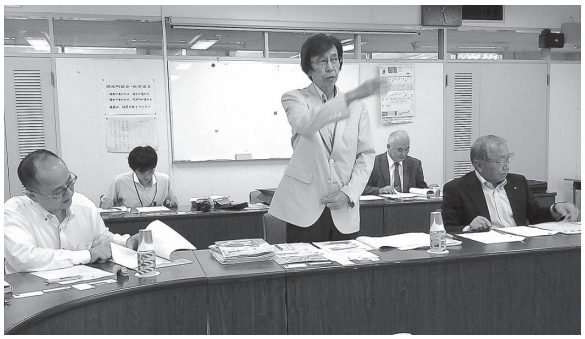
そこで委員会は「議員の政治倫理条例」・「議会基本条例」(通年議会)の制定に向けての研究活動を行なうため、神奈川県の寒川町と開成町の視察研修を行ないました。

研修は議会運営の基本的事項を定め、町民参加を基本とする開かれた議会を実現し、豊かな町づくりに貢献することが目的で「議員がまず政治上の倫理を確立する」とともに「議会が何をなすべきか」の基本的なことを「議会基本条例」で謳い上げることとし、さらに議会の活動を活性化させて「町民の皆様により良い町づくり」をしようという考えです。

そして、今回その成果として１２月議会より、一般質問を「一問一答」で町民の皆様に質問内容が、よりわかりやすくすべく取り入れる事にしました。

今後はさらに具体的には議会・議員の仕事を明確にし、また自らを律し町民にわかりやすい町政を目指すべく研究活動・改革を推し進めていきます。

「もっと政治を町民に身近なものとして感じていただき、将来この多良木町を担っていく子どもたちのために、我々議会人がなすべきか」を考えていきたいと思っています。　**（文責：林田）**



開成町議会での研修

これまでの議会の動き

9月
2日　議会運営委員会
10日　本会議
11日　各委員会・全員協議会
12日～13日　各委員会
17日～20日　本会議
24日～26日　経済建設委員会・厚生文教委員会政務活動
30日～10月2日　総務委員会政務活動

10月
3日　広報委員会
8日　広報委員会
11日　防災協力会等との意見意見交換会
15日　広報委員会
17日　厚生文教委員研修
18日　全員協議会
22日　広報委員会
25日　議会運営委員会
29日　広報委員会
31日　議員研修会

11月
1日　臨時議会
5日　上球磨町村議員研修会
8日　議会活性化特別委員会
12日　厚生文教委員研修
21日　議会広報研修会
25日　議会活性化特別委員会部会（政治倫理）
28日　議会活性化特別委員会部会（通年議会）

12月
2日　議会運営委員会
5日　本会議・全員協議会
9日　各委員会
10日　全員協議会・各委員会
11日～13日　本会議
20日　議会活性化特別委員会

発行／多良木町議会
〒868-0595 熊本県球磨郡多良木町多良木1648番地
TEL0966-42-6111
FAX0966-42-2293
編集／議会広報調査対策特別委員会 平成26年2月6日発行

整列・休め！　むつみ保育園

どうなる？えびすの湯

Q：平成２６年４月からの指定管理は？
A：引き続き３カ年間指定管理者を決定契約し運営していきます。

Q：休館すると聞くが本当か？
A：毎月の休館日は設定する。修繕等による休館はできるだけしないようにする。

Q：修繕料が多額と聞くがどうするのか？
A：維持管理を重視し、目視で漏水調査発見個所については、休館日を利用し、速乾性剤等による簡易補修をしていく。

編集後記

新年に心に期した抱負。これが実現に至るには、明確な目標の下で決意を固め、目標達成への具体的な実践項目を定める、ということが不可欠です。

今年は、**午年**です。数多い動物の中でも、馬ほど人間の心を理解する動物はいないのではないでしょうか。こんな話を聞いたことがあります。荒野を馬で旅していた人が、過労でヘタリ込みそうになる馬に向かって、**もうすこしだ頑張れ**と励ましたところ、その馬は最後の力をふりしぼって目的地まで歩いたそうです。

これほど馬と乗り手の息がピッタリ合えば言うことはないでしょう。昔から「**馬には乗ってみよ。人には添うてみよ**」と言われますが、人にも実際に当たってみなければその人の本質はわからない。当たった結果、意気投合すれば、「**ウマが合う**」ということです。

私たち、**議会だより**編集委員も委員長の下に委員全員協力し一体となって**うまく**いくよう努力していきますので、町民の皆さま今年も**議会だより**をご愛読いただきますようよろしくお願い致します。（村山）

広報特別委員会構成
◎瀬崎　哲弘　魚住　憲一
○坂口　幸法　村山　昇
吉瀬浩一郎　林田　俊策